

取扱いの趣旨

腰痛症に対する介達牽引は、有効な治療法として広く認知されていることから、原則として認められる。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】 《平成17年4月25日》

21 介達牽引（腰痛症）

○ 取扱い

原則として、腰痛症に対しての介達牽引は認められる。

○ 取扱いを定めた理由

腰痛症に対する介達牽引は教科書にも有効な治療法として記載されている。

○ 留意事項

原則として、腰痛症に対して介達牽引は認められるが、急性期や筋膜性腰痛症等には症状を悪化させることがあるので、事例によっては適応とならない場合もある。

グラフの見方

1 棒グラフ（対象レセプトの審査結果）

介護率引を算定しているレセプト1万件当たり、条件（腰痛症に対して介護率引を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、介護率引が査定・返戻となった割合

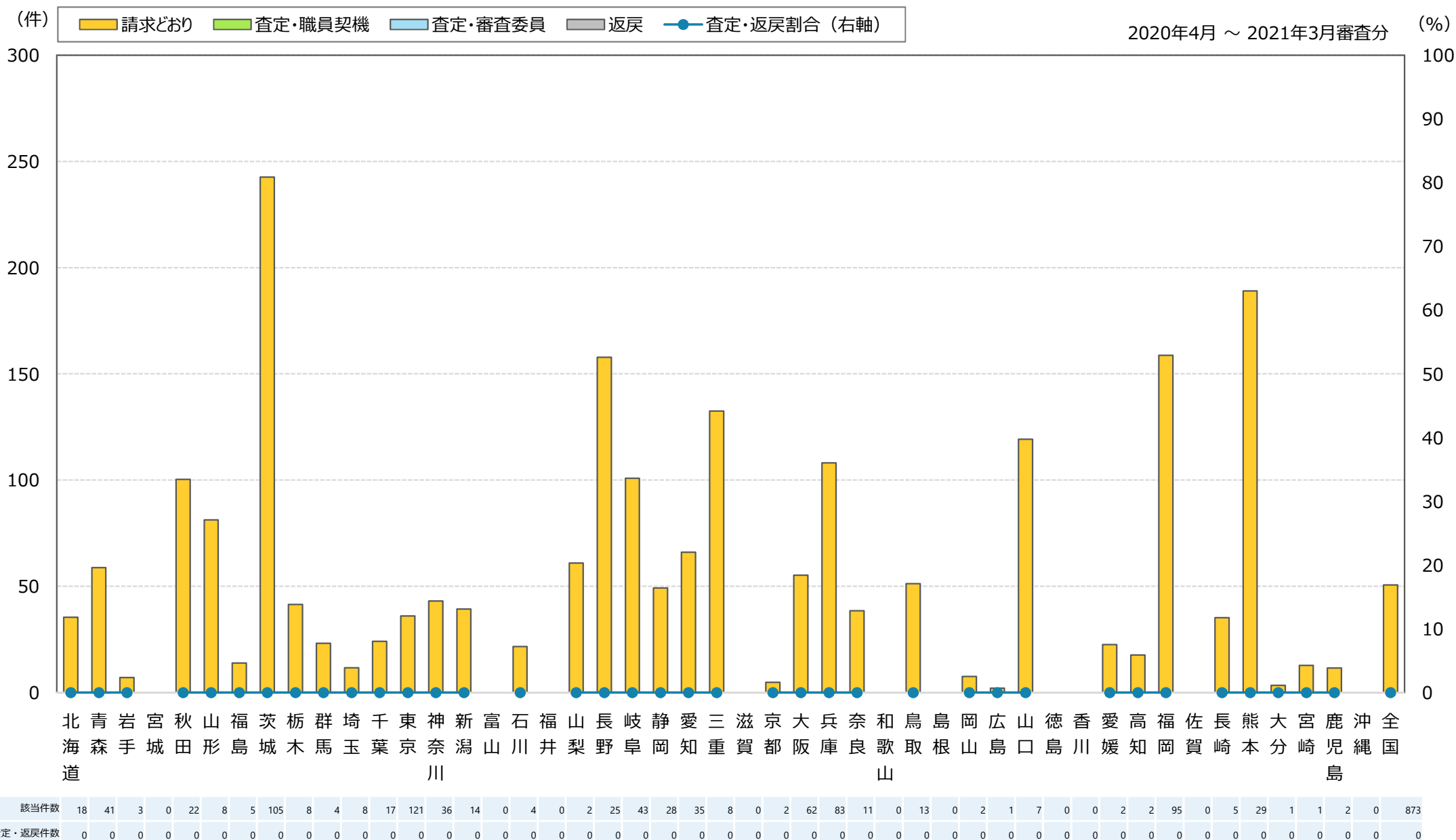
【棒グラフ凡例】 審査の結果

請求どおり			: 取扱いどおり
査定 審査委員	査定 職員契機	返戻	: 検証が必要

審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 0%
- 該当レセプトはすべて取扱いに基づく審査が行われている

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が高い支部	－	
査定・職員契機	－	
査定・審査委員	－	
返戻	－	
該当件数（全国）	腰痛症に対して介護率引を算定	873件
取扱いに基づく審査	請求どおり	873件
検証を必要とする審査	査定・返戻の計	0件



【該当件数】腰痛症に対して介護牽引を算定しているレセプト件数